

### ポイント15 言わぬは言うに勝る

幼児は生まれつきの学習好き

“学習”という言葉は幼児のために作られたようなもので、人間の一生のうちで、幼児期ほど、

“学習”好きな時期は無い、と言えます。

幼児はだれでも学習好きに生れついているのですから、黙ってただ温かい目で見守っていさえすれば、それだけでうまくいくはずなのに、脇から親が余計な口出しをして、子供のやる気をそいでいる、というのが遺憾ながら実情です。前に取り上げましたが、このことを“助長”と言って、親の最も陥りやすい弱点です。“助長”は親の自己満足に過ぎず、事実には子供をそこねるだけの行為ですから、くれぐれもご注意が肝要です。「親の言う言葉で最も嫌な言葉は何か」を調査したことがあります。その第一に、「勉強しようと思っている時に“勉強しなさい”と言われること」が挙げられています。正に「“言わぬ”は“言う”に勝る」です。

温かい親心が子供の人情を育むのです。「目は口ほどに物を言

い」の例え通り、黙って見守る温かいまなざしが、子供の心を明るくし、安定させ、人間らしい心遣いを育てることを可能にするのです。

コラム

**部首** 火

火の燃えている形。

【炭】 山の崖の意味の巖と火との会意字。“すみ”は山の中腹で焼いて作ることを表す。

コラム

**部首** 口

人のくちの形。

【古】 十と 𠂔との会意字。“十代にわたって 𠂔 から 𠂔へと伝えられた”こと。

【咲】 口と关との会意形声字。“ 𠂔 を開いてわらう”のが本義。

コラム

**部首** 水

川の水の流れる形を表したもの。

【油】 由という川の名前。この川はとろりとして波一つ立たないので“とろりとした液体”“あぶら”のこと。

【泳】 “水中に永くいる”こと。